

令和4年度

事業計画及び予算書

公益財団法人いばらき文化振興財団

目 次

I 事業計画	1 ~ 16
II 収支予算	17 ~ 21

I 事業計画

基本方針	1
1 公益目的事業1 [公1] (文化振興事業)	2 ~ 7
2 収益事業1 [収1] (県民文化センター自主事業)	8
3 公益目的事業2 [公2] (水族館事業)	9 ~ 15
4 収益事業2 [収2] (水族館売店事業)	15 ~ 16
5 法人運営	16

I 事業計画

基本方針

当財団は、「各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図りもって国際性豊かな文化の県づくりに寄与する」ことを目的として、次の事業を実施する。

なお、公益財団法人として公益目的事業を引き続き遂行するとともに、収支の均衡した健全で責任ある経営に努めるものとする。

令和4年度は、県民の自主的・個性的な文化活動の支援をはじめ、参加体験を通じた文化芸術の担い手育成や県民とともに創る新たな文化プログラムの提供等により文化振興の拡充を図るとともに、本県文化活動の拠点施設である「茨城県立県民文化センター」の適切な管理運営により、県民が様々な文化芸術に接する機会を提供する。

また、「NEW AQUAWORLD」として作り出した様々な新ブランドの継承と、常に新しいことに挑戦し、今までにない「世海」を創出する海の総合ミュージアムである「アクアワールド茨城県大洗水族館」の運営を行い、県民から愛され、親しまれる施設運営と事業展開に努める。

さらに、新型コロナウイルス感染症に対しては、利用者の安全が確保できるよう防止対策の徹底を図るほか、効率効果的な事業手法の導入や経費抑制の徹底による経営基盤の強化で、県民文化センター及び大洗水族館の両施設の機能が十分発揮できるよう管理運営に当たるものとする。

1 文化振興事業

(1) 文化振興推進事業

長期化するコロナ禍においても、県内で活発な文化芸術活動が推進されるよう、県内各地で活動する文化活動団体等への支援の充実と、広く県民が文化芸術に参加する機会の創出や担い手の育成強化などにより、個性豊かな本県文化形成を推進する。

(2) 茨城県立県民文化センター指定管理事業

第4期指定管理期間（令和3年4月1日から令和6年3月31日までの3年間）の2年目においても、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、施設利用者が安全安心で快適に施設が利用でき、文化芸術の振興と県民の文化水準の向上に寄与できるよう施設運営に努める。

2 水族館事業

大規模リニューアルを機に生まれ変わった水族館として、IWASHI LIFE やナイトライブなど20周年を機に作り出した新たなブランドを継承しつつ新しいことに挑戦し今までにない世界を創出する。また、サメの飼育数日本一を誇り、日本初シロワニの繁殖を成し遂げたナンバー1かつオンリー1の水族館として確立していく。

<財団全体の施設年間利用者目標数>

・茨城県立県民文化センター利用者数	398,900人
・アクアワールド茨城県大洗水族館総入場者数	1,101,800人
合計	1,500,700人

1 公益目的事業1（文化振興事業）

（1）文化振興推進事業

今まで培ってきた実績等を活かしながら、広く県民が参加し文化芸術を創出する事業への取り組みや文化の担い手育成の強化、文化活動団体等の活性化支援により文化芸術振興の拡充に努める。

ア 文化活動への助成、情報の発信

県内活動団体の現状等を踏まえて新たに改定した助成枠に基づき、コロナ禍においても創意工夫を凝らし積極的に文化活動を行う団体、更なる事業の活性化や担い手育成に取り組む文化活動団体等に対し事業等への支援を行う。

<助成計画数>

項目	R3 計画	R4 計画
助成交付件数 (件)	63	57
助成予定額 (千円)	20,000	15,421

（ア）文化活動団体等に対する活性化支援

県内文化活動団体等に対する助成制度を一部見直したほか、団体の活性化を図るため、活動内容や取り組みに対する指導・助言、Web ページを活用した県内文化活動団体等の活動内容の情報発信や活用可能な助成金の案内などの情報提供を行い、県内文化活動団体等の活性化を支援する。

（イ）申請者の利便性の向上

助成金の申請手続の電子化に加え、実績報告書等の提出についても電子化を進め、書類の完全電子化により利用者の利便性の向上及び業務の負担軽減に努める。

イ 参加創造事業

県内在住・出身の新進演奏家への発表の場の提供を推進した支援や、児童生徒と新進演奏家との交流・体験を図る事業、県民が企画して創りあげた文化プログラムに多くの県民が参加し活動活性化や賑わいを創出する事業、事業所間で連携・協働して相互の機能を高める事業など多様な事業などを実施し、コロナ禍において停滞しつつある文化振興の拡充と担い手の育成を図る。

<事業計画数>

実施日	公演名	会場	入場者数
8月12日(金)	県民企画公募型事業（動画配信） 「朗読コンサート（仮称）」	小ホール等	1,000人
9月18日(日)	新進演奏家ステップアップ事業（動画配信） 「第48回茨城県新人演奏会」	大ホール等	500人
10月22日(土)	担い手育成事業（動画配信） 「親子で楽しむ0歳からのコンサート」	小ホール	300人

11月6日(日)	新進演奏家ステップアップ事業 「新人演奏会受賞者コンサート」	常陽藝文 センター	250人
1月14日(土)	地域文化活用事業(動画配信) 「いばらきの民話(ミュージカル)」	小ホール	300人
2月12日(日)	新進演奏家ステップアップ事業(動画配信) 「新人演奏会歴代受賞者コンサート」	小ホール	300人
11月～1月	水族館(事業所間)連携事業 「夜の水族館での演奏会」	大洗水族館	300人
計7事業			2,950人

ウ 新進演奏家への支援

県内在住・出身の新進演奏家への支援については、当財団の自主公演事業での出演をはじめアウトリーチ事業(文化芸術体験出前講座)や市町村等が主催する演奏会への派遣を継続かつ計画的に行っていく。

また、昨年開設したWebチャンネル上で、引き続き新進演奏家のプロフィールをはじめ提供可能なプログラムや演奏のPR動画などの紹介により派遣要望の拡大に努め、Webを活用したプロモーションにより支援を強化する。

<出演・派遣等人数>

(単位：人)

区 分	R3 計画	R4 計画
主催公演事業	34	35
アウトリーチ事業(出前講座)	81	85
市町村等派遣	5	10
合 計	120	130

エ 受託事業

従来の学校派遣型の出前講座に加え、県内市町村と連携し公立文化施設等において親子で参加可能な講座を開催し、より広く様々な文化芸術の魅力に触れる機会を提供するとともに、動画配信を活用した事前レクチャー講座と学校等で実際に体験する本講座を併せて実施し、より豊かな感性や創造力・想像力の育成に努める。

<実施計画数>

区 分	会 場	回 数
音楽、伝統文化、美術等	県内小中高等学校等	70
	県内市公立施設等	12
事前レクチャー講座(動画配信)	—	18
合 計		100

(2) 県民文化センター指定管理事業

今年度は、指定管理期間の中間年となるが、引き続き新型コロナウイルス感染症の状況に留意しながら、大ホール、小ホール、一般展示室、県民ギャラリー、集会室などの多様な利用機会の提供やより質の高い鑑賞機会の提供を行い、県民に広く利用されるよう努めるとともに、適切な施設の維持管理を行う。

また、利用者ニーズを的確に反映した事業推進と更なるサービスの向上、新しい生活様式を踏まえた安全安心で快適に施設を利用できる施設運営に努める。

ア 施設の利用見込

未だに新型コロナウイルスの収束が見通せない状況にあり、感染拡大に応じて施設全体のキャンセルが後を絶たず、収容率の制限のあるコンサートについては、採算性の観点から開催の延期や中止をする状況が続いている。また、利用者数についても、感染防止の観点からの利用者数の制限やオンライン会議の普及により、コロナ前と同様の利用者数の確保が難しい状況となっている。

このような状況下にあっても、本県の文化施設の拠点として、利用者が安心して施設を利用できるよう県及び関係各団体等の感染症防止ガイドラインを遵守し、感染拡大防止対策の徹底に努め、安全・安心な施設運営を図る。

そのほか、今後も引き続き、各種大会や講習会、演奏会等において、オンラインを活用したハイブリッド型施設利用を提案しながら、積極的な営業活動を展開し、当館で開催される催事内容をより多くの方に提供していくとともに、施設利用の確保に努める。

項目	利用者数(人)	利用日数(日)	利用料金(千円)	利用率(%)
大ホール	146,500	255	59,230	82.5
小ホール	50,200	263	12,530	77.4
本館集会室	73,500	311	7,179	89.9
分館集会室	26,700	311	11,350	89.9
和室(本館)	2,200	207	1,750	59.0
一般展示室	46,400	239	5,782	68.9
県民ギャラリー	51,900	239	4,316	68.9
練習室	1,500	159	398	45.4
施設全体	398,900	1,984	102,535	72.7

※ 利用率は、利用可能日に対する利用日数の割合

イ 鑑賞事業

コロナ禍においても、県民の様々な要望に応えるため、公演アンケート等の要望を参考に大型舞台公演である海外オペラや、昨年のショパンコンクール優勝者等が出演するピアノリサイタルシリーズなど芸術性に優れた質の高い公演を開催するとともに、若い世代をはじめ各世代の方々により多く鑑賞していただける公演をバランスよく開催し、多種多様なジャンルの舞台公演に接する機会を提供する。

また、子育て世代の親子が一緒になって鑑賞できる公演や市民が参加できる公演の開催、学生以下を対象とした割引料金の設定等により舞台公演の鑑賞を促進するほか、適切な入場料金設定により鑑賞しやすい環境を整えるため、公的助成金や企業協賛金の獲得に努める。

なお、ホームページ等での広報により Web チケット販売システムの更なる利用促進を図るとともに、同システムの顧客情報や公演アンケートのデータを基に、ホームページや SNS などの各種広報媒体を活用した情報発信や愛好者団体への情報提供等を公演のターゲットに合わせて行い、新規鑑賞者の開拓とリピーターの確保に努める。

月 日	公演名	会 場	入場者数
4月2日(土)	落語二人会 (柳家喬太郎・春風亭一之輔 ほか)	大ホール	850人
4月3日(日)	南こうせつコンサートツアー	大ホール	1,200人
6月11日(土)	平原綾香コンサートツアー	大ホール	1,200人
6月26日(日)	手嶌葵コンサートツアー2022	大ホール	1,200人
7月16日(土)	おしり探偵ミュージカル (2回)	大ホール	2,400人
8月14日(日)	AI コン서트ツアー	大ホール	1,200人
9月7日(水)	ピアノリサイタル シリーズ Vol.1 小林愛実ピアノリサイタル	大ホール	850人
9月19日(月-祝)	民謡・舞踊公演「公演名未定」	大ホール	1,200人
10月15日(土)	木村大&榊原大コンサート	小ホール	300人
11月10日(木)	海外オペラ	大ホール	1,000人
11月10日(木)	オペラ鑑賞講座	小ホール	300人
11月20日(日)	和楽器バンドコンサートツアー	大ホール	1,200人
11月24日(木)	野村萬斎狂言会	大ホール	1,100人
12月16日(金)	海外バレエ「白鳥の湖」	大ホール	1,000人
12月18日(日)	世界名作劇場	小ホール	300人
1月29日(日)	機関車トーマス (2回)	大ホール	2,400人
2月12日(日)	藤井フミヤ コン서트	大ホール	1,200人
2月26日(日)	ピアノリサイタル シリーズ Vol.2 ブルース・リユー ピアノリサイタル	大ホール	850人
日程調整中	高嶋ちさ子 12人のヴァイオリニスト	大ホール	1,200人
日程調整中	ピアノリサイタル シリーズ Vol.3 角野隼人ピアノリサイタル	大ホール	1,200人
計 20 事業			22,150人

ウ 施設の利用促進とサービスの向上

(ア) 利用促進対策

ホームページや施設案内等で催事の開催予定や施設の空き状況等の情報を提供するほか、利用実績のある団体等については、利用顧客データを活用してメールやホームページ等での空き情報の提供やコンベンション機能・映像配信機能の周知に努め、電話・訪問による営業活動を積極的に展開しながら、施設の利用促進を図る。

また、各学校に対しては、空き情報の提供や動画配信設備の活用法を案内し、学校行事（観劇会）や吹奏楽演奏会等での施設利用を依頼するとともに、関係機関や各種団体、プロモーターに個別の働きかけを行い、より多くの全国大会やブロック大会等のコンベンション、コンサート等の誘致に努める。

さらに、新たに利用促進チームを充足させ、催事の情報収集や今後の利用促進策の検討・営業活動を行い、更なる施設の利用促進を図る。

そのほか、閑散期の利用促進策として実施している大ホール・小ホール・展示室・県民ギャラリー・和室(大・小)の1月割引を継続する。

(イ) 各団体との連携による利用促進

コンベンション等の誘致については、茨城県や県 MICE 誘致推進協議会、水戸市や水戸観光コンベンション協会等の関係機関との定期的な会議や情報交換等により連携を図り、全国大会及びブロック大会の誘致に努める。

また、茨城文化団体連合をはじめ県内の文化団体等との情報共有により連携強化を図り、一般展示室や県民ギャラリーでの展覧会誘致を図る。

さらに、茨城県公立文化施設協議会及び全国公立文化施設協会との連携を図り、加盟館の情報共有や文化施設の職員を対象とした各種研修会等を開催し、県内施設職員の企画・技術力の向上を図るとともに先導的役割を担う。

(ウ) サービスの向上

ホームページについては、より見やすく、分かりやすいページ構築や SNS での最新情報を提供するとともに、Web チケット販売に加えて、来館者へのチケット販売では、新たに電子マネーや QR コード決済システム対応レジの本格稼働により利用者の更なる利便性向上を図る。

また、施設の利用申込みや催事の実施方法の説明時には、タブレット等の電子媒体を活用した画像・映像による紹介を継続実施し、利用者がイメージしやすい案内・対応に努めるとともに、施設予約受付についても、Web での集会室予約システムを本格稼働させ、利用者の利便性向上を図る。

毎月、主催者向け及び利用者向けにアンケート調査を実施し、分析結果を施設改善や対応に反映させ、利用者がより快適に利用できるようサービスの向上に努める。

(エ) 県民文化センター友の会の運営

コロナ禍などにより友の会の会員数確保が難しい状況にあるが、今後も、会員等のニーズを踏まえた人気のある公演のチケット割引や、座席の先行予約を継続実施するとともに、外部公演主催者に対し会員のチケット割引の働きかけ等により会員サービスの向上を図り、新規会員の確保及び現会員の継続に努める。なお、Web での

入会手続きやチケットの購入など利用しやすい環境の提供にも努める。

エ ピアノを活用した参加事業

世界三大ピアノの一つである「スタインウェイピアノ」を活用した参加事業を、年間10回実施する。また、参加者が持ち込んだ楽器とのアンサンブル演奏やDVD等への録画・配信等を要望に柔軟に応えながら引き続き実施し、満足度の向上に努める。

さらに、演奏家等を活用した参加者へのレッスン・講評等を実施し、参加者の演奏力の向上と担い手の育成に寄与する。

オ 安全・安心で快適な施設づくり

開館後56年が経過し、施設の長寿命化を図るため、引き続き県と協議のうえ計画的な修繕を実施する。また、アンケートなどにより利用者の声を反映させながら、危険箇所の早期発見と事故の未然防止に努める。なお、緊急性の高い修繕箇所については、優先して迅速に修繕を実施するとともに、大規模な修繕項目に関しては設計業者に委託し整備項目の抽出等を行い、県と協議しながら進めていく。

また、今年度は、備品である国産ピアノのオーバーホールをはじめ、大ホール客席床下壁補修工事や大ホール緞帳電動巻取ドラム修理などを実施して機能保全や安全性の向上を図り、利用者に優しい快適な施設づくりに努める。

(ア) 施設設備計画

項目	金額(千円)
大ホール等外壁(県)	60,000
分館 屋上防水工事(県)	25,300
大ホール 客席床下壁補修工事(指)	4,103
国産ピアノ(ヤマハCF-Ⅲ)オーバーホール(指)	3,500
大ホール緞帳電動巻取ドラム更新工事(指)	1,900
大ホール 舞台袖照明操作卓修繕(指)	750
大ホールピンルームエアコン修理(指)	200
小ホール音響卓修理(指)	2,000
舞台照明操作卓用UPSバッテリー交換工事(指)	400
大ホール楽屋1号壁クロス修繕(指)	300
緊急修繕費(指)	2,217
計11件	100,670

(イ) 危機管理対策

不特定多数の利用が見込まれ、危機管理への備えを万全にするため、危機管理対応マニュアルを更新し、全職員及び分館入居団体、業務委託先等への周知徹底を図るとともに、消防法に基づく年2回の避難訓練を実施し、利用者の安全確保に努める。

2 収益事業1（県民文化センター自主事業）

（1）売店事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、文化センター全体の利用者が減少傾向にあり、収益の確保がきわめて厳しい状況におかれているが、利用促進策として、各集会室に売店営業の案内を掲出及び、ホームページによる案内の継続のほか、新たにSNSによる情報発信を行う等来館者への周知を徹底するとともに、商品の入れ替えを実施し、利用率を高め収入の確保を図る。

なお、主催等公演のグッズ販売や大ホール等への臨時ワゴン販売等を新たに展開し、売り上げ増に努める。

また、過去の利用データを活用し、売店の営業時間等、運営の見直しを行い、経費抑制に努め、収支均衡を図る。

（2）駐車場事業

催し物に合わせ警備員を適切に配置し、利用者が安全安心に利用できるよう親切丁寧な案内や誘導を行い事故の未然防止に努める。

また、駐車場利用状況表示板改修等、計画的な整備を進め、利用者が安全かつ円滑に利用できるよう管理運営に努める。さらに、施設全体の利用を促進するとともに、駐車場事業の経費見直し等に努める。

3 公益目的事業2（水族館事業）

（1）水族館の運営

大規模リニューアルを機に生まれ変わった“NEW AQUAWORLD”として、新たなブランドを継承しつつ、新しいことに挑戦するほか、日本初シロワニの繁殖を成し遂げたオンリー1の水族館として確立していく。

また、飼育生物の充実と娯楽性を持った展示や生物とのふれあいを中心とした新たなプログラムの開発を推進し、県有施設として県民に愛され、県の魅力向上を図れる水族館を目指していく。

項目	上半期	下半期	計
一般	455,560人	297,687人	753,247人
団体等	94,556人	82,324人	176,880人
年間パスポート	8,180人	6,070人	14,250人
年間パスポート2回目以降	29,606人	25,319人	54,925人
有料入場者計	587,902人	411,400人	999,302人
無料入場者	56,108人	46,390人	102,498人
総入場者数	644,010人	457,790人	1,101,800人

（2）飼育展示事業

基本テーマ「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に基づき展示の充実に努めるとともに、飼育生物や県内外に棲息する水生生物について調査・研究を行い、それらを通して自然環境保護の啓発活動を行うことで、環境保全の基幹施設としての一翼を担う。

ア 魚類展示

お客さま、生きもの、スタッフの安全・安心を第一に考え、水族館の4つの目的（調査研究、教育、種の保存、レクリエーション）に沿って「既存展示の魅力度アップ」、「新規生物の導入」、「サメの展示の充実」を実施する。

また、飼育展示技術の開発、継承・人材育成を図りながら、誰もが「何度も来たくなる・何度も見たくなる」展示を目指す。

（ア）IWASHI LIFE の演出強化方法の検討

昨年度より出会いの海大水槽で開始した「IWASHI LIFE」は好評で話題性・注目度も高い状態が続いているが、より生物の魅力をアピールできるように新たな演出の手法・機材を検討し、強化を図る。

（イ）サメの繁殖研究・展示

卵生サメ類の繁殖をさらに推進するために親魚の確保を行うとともに、現副調餌室を利用した展示「サメの培養室」へ向けた整備を行う。

（ウ）解説動画の展示

表示板だけでは伝えきれない生物の生態等を当館で撮影した映像を活用し、生物への興味喚起をするとともに、話題性を向上させる。

(エ) フィールドでの生物の採集

定期的に乗船収集等を行い、収集した生物を用いて季節感のある展示を目指すとともに、マンボウ・サメの補充と茨城県産魚類の調査研究に役立てる。

(オ) 深海生物・サメなどの新規展示・導入・補充

日本最多のサメの展示種数を維持するため、中期展示計画に則って収集・購入等を積極的に行っていくとともに、新たな深海生物収集拠点の検討の一環として、高知県室戸市での乗船収集調査を行う。

(カ) 展示手法の見直し・改修による魅力度アップ

生物の魅力をより伝えられる展示手法を改善するとともに、経年劣化した水槽の補修・リフレッシュを図り、展示効果を高める。

イ 海獣展示

既成概念にとらわれない発想で、生物展示・ショー・イベント等を企画実施するとともに、来館者にとって一度きりの特別な体験プログラムを提供し、より充実度を向上させ、リピーターを確保する展示を目指す。

(ア) プログラム・イベントの見直しによる魅力度アップ

昨年11月からリニューアルスタートした、オーシャンナイトライブ「雪月花」が好評なため、今年度も継続して実施していく。

なお、参加体験型プログラムについては、好評であった「イルカと泳ごう!」と「ペンギン給餌体験」は継続実施し、新たなプログラムとして、アクアホールでの「イルカ解説ライブ」や「ペンギンタッチと記念撮影」を実施する。

(イ) 鯨類の自然繁殖推進と人工授精技術の確立

ホルモン動態の調査を継続し、妊娠候補個体を選定したうえで自然交配を促すとともに、妊娠確定後は、出産に向けた環境整備を速やかに整え、母獣が落ち着いて出産に臨めるようにする。

なお、雄個体の精液保存に向け、県肉用牛研究所と共同で希釈液の精製や凍結方法等を継続検証し、人工授精に備える。

(ウ) アシカ・オットセイの訓練強化、ショー出演個体増と解説プログラムの充実

カリフォルニアアシカについては、複数頭出演や若齢個体の出演に向けたトレーニング強化を進める。

なお、ミナミアメリカオットセイについては、体温測定、採血等のハズバンドリートレーニングを優先的に進めながら、解説中に実施する演技種目の拡充を目指す。

(エ) 鰭脚類、鳥類、カワウソの自然繁殖推進

カリフォルニアアシカ、フンボルトペンギン、エトピリカについては、個体数の安定が図れているため継続する。

なお、カナダカワウソについては、季節に合わせた気温のコントロールや繁殖行動の観察を強化する。また、繁殖時期は新規雌1個体と雄の同居飼育を行う。

(オ) アシカ・ペンギン・カワウソのふれあいプログラムに向けた訓練強化

カリフォルニアアシカについては、屋外展示プールの整備後、展示場にお客様を招いてのふれあいを計画する。

なお、フンボルトペンギンについては、写真撮影や握手といったふれあいに参加できる個体を確保するため、計画的な人工育雛を継続する。

また、カナダカワウソについては、体への接触や人に対する脱感作を行うほか写真撮影に向けた器具への脱感作を併せて行う。

ウ 自然博物館水系展示水槽管理受託事業

ミュージアムパーク茨城県自然博物館から受託した水系展示水槽の適切な管理を行うとともに、展示用生物の収集をはじめ、各種展示解説や企画展での水槽展示、維持管理を行う。

(3) 教育普及事業

みんなの「知りたい」を満足させる水族館を目指し館内での解説・レクチャー、館外での活動を行うことを通して、来館者の満足度アップに貢献し、リピーターの確保に努める。

なお、学校を対象とした事業においては、感染症の状況に左右されないリモートでの事業についても実施することで、学校関係の誘客・利用促進に努める。

ア 発見体験学習の実施

事前募集型の「自然体験塾」として、11講座21回の開催を計画する。

昨年度に引き続きホームページ上での募集を主とするが、SNS、LINE等も利用し、情報の周知及び利用度アップに努める。

なお、個人情報管理の観点より昨年度見送ったメールでの応募を取り入れることで、申込機会の拡充を図るとともに、事務作業・発送費等の経費抑制を図る。

イ レクチャー及び展示解説の実施

昨年度好評で参加率も高かった「水族館バックヤードツアー」を継続実施し、参加者の満足度アップと収益の確保に貢献するとともに、季節イベント等と連動した様々な付帯事業も柔軟に取り入れ実施する。

ウ コンピューター情報運用管理

館内のタッチパネルに関しては、システム及び機材の老朽化と感染症防止の観点から今年度中にすべて撤去し、情報案内に関しては生物解説アプリ「リンネレンズ」へ完全移行する。

エ 機関紙「Sea 遊」の発行

館内案内・情報発信・教育普及を目的とし、年2回（6月、12月）発行を予定し県内小中学校ほか、図書館などの各機関、栃木県内小中学校への配布を行う。

オ ミュージアムゾーン「シャークダイズルーム」の運用管理

昨年12月にリニューアルした、サメをテーマとした新感覚展示エリア「シャークダイズルーム」を普及プログラムや催事等で最大限に活用し、当館の魅力向上促進に努める。

カ 自然教室等への講師派遣

学校教育機関などからの依頼を受け、随時対応するとともに、Web 会議システム等を利用したリモートでの講師派遣にも積極的に対応し、学校の利用促進につなげる。

キ 実習生・研修会等の受入れ

感染症の状況を鑑みつつ、主に中・高校生の職場体験、大学生の実習など、依頼を受け柔軟に対応する。

ク 生物解説アプリ・多言語アプリの導入

生物解説アプリ「リンネレンズ」については、水槽ごとの解説・生物一覧表示が可能な「リンネレンズガイド」機能を利用し、タッチパネル撤去後の生物情報提供の柱とする。

なお、多言語アプリに関しては、リニューアルに伴い展示と一部適合しない部分が出てきたため、随時更新する。

ケ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として、大洗水族館で活動しているボランティアグループ「マンボラクラブ」と連携を深め、活動支援を行う。

(4) 誘客促進事業

安心安全なイメージの確立に努め、県内外からの集客を図るとともに、サメのブランド化を進めるため、昨年度に誕生したシロワニの赤ちゃんをからめたイベントを実施する。

なお、近隣の国営公園のネモフィラの開花時期に合わせたイベント等を開催し、一年を通して季節感を出したイベントを実施する。

混雑緩和対策としては、Web チケットの活用を継続し、分散化や非接触を押し進めていくとともに、館内マップ等の印刷物の電子化を進めることで、with コロナ時代に対応した環境整備に努める。

また、新規顧客を開拓するため、ホテル宿泊プランや旅行代理店によるツアー企画ユニークメニューの実施など、常に新しい商品や話題の提供に努めるほか、大洗町との連携事業を継続することで、地元から愛される水族館を目指す。

プロモーション活動については、当館のオウンドメディアの充実を図るため、ホームページのリニューアルの実施、さらに SNS 分析も行うことで、きめ細かな情報発信を行っていく。

その他、引き続き Web を使った PR に比重を置くことで紙媒体からの移行を進めるとともに、大型イベントについては、内覧会を実施することで、メディアでの露出を高め、さらに、有料広告については、より宣伝効果を上げるため、他観光施設と連携した合同 PR の実施を目指す。

ア イベント

4月後半より「SPRING BLUE AQUAWORLD（仮称）」として、昨年6月に誕生したシロワニの赤ちゃんを最大限に活用したイベントを予定。館内では「IWASHI LIFE」や「くらげ365」も上記イベントに合わせて照明や音楽演出を変更し、館内全体での盛り上げを図る。

なお、近隣のひたち海浜公園におけるネモフィラの開花時期と重なるため、県内観光施設としてともに盛り上げ、県の魅力度アップにも貢献する。

夏・秋については、水族館本来の生き物の魅力にクローズアップし、館内回遊施策を通じて、その魅力の浸透を図るほか、9月に県内唯一のB1リーグチームである「茨城ロボッツ」とのシーズン前イベント等も行い、新規入館者の開拓に努める。

冬・春については、閑散期にもあたるため、クリスマスやお正月など季節イベントを細かく打ち出すことで常に話題が提供できる状況を整える。

夜営業については、年間を通じて週1回継続的に開催することで「土曜の夜はNIGHT AQUAWORLD」という印象を高めるとともに、地元企業とのコラボや生物へのフォーカス、シーズンネタなど様々なパターンの可変性を持ったプログラムを醸成することで、客層の多様化に努める。

イ プロモーション

タグライン「さあ、新世海！」を継承し、HP やイベントチラシ等において積極的に使用し、新規プログラムや新着生物等の情報発信を行っていく。

HP については、お客様の利便性向上のため、各ページを整理し、デザインを一新することで、分かりやすい構成に作り変えるほか、外国語ページを充実させることでインバウンドに向けた準備を進める。

SNS については、好奇心を刺激するような効果的な情報発信を目指していくほか分析を外部委託することで、生物情報やイベント情報など、トレンドやニーズに合った話題の発信に努める。

広報宣伝については、お客様のライフスタイルに合わせて、Web 媒体への移行を推し進め、さらに、夜間に内覧会を実施する場合、メディア用バスをチャーターすることで、都内メディアの誘致を積極的に行う。

なお、より PR 効果を上げるため、県や観光施設と連携し、“オール茨城”体制のプロモーションを目指すための準備を進める。

ウ オペレーション

Web チケットについては、非接触の実現、館内混雑の緩和、オペレーションの簡略化の観点から導入を継続し、また販売ページ上での選択肢を増やす意味で様々なチケットプランを醸成する。

なお、企業連携や近隣宿泊施設等とのセットプランについても、電子チケットのノウハウを活かし、順次非接触・電子化を進めることで、業務の効率化を進める。

昨年度、売り上げが非常に好調であった年間パスポートについては、確実な更新による囲い込みを実現すべく、特典の更新・キャンペーンなどを通じてアピールするとともに、電子化を進めるための検討にも着手する。

また、昨年度末に導入した自動ゲートを十分に活用するためにも、各種割引等の整理を行い、省力化に努めるとともに、館内マップ等の配布物に関してもさらなる電子化を進め、経費の節減・省力化を実現する。

エ セールス

新商品を開発し、旅行業者や宿泊施設との連携強化を図り、新たな商圏内の団体を確保するため、誘致活動を積極的に行っていく。

また、新規事業としてユニークベニューや校外学習利用としての SDGs 食育プランを実施し、誘客促進を図る。

(5) 管理運営部門

依然として、新型コロナウイルス感染症の影響が残り通常運営が見込めないため今年度は新たな収入源の確保を図っていくほか、業務の効率化を推進することで、より一層の財務健全化を図る。

ア 収入確保対策

コロナ禍による収入減等補填のため、各種の助成金等の活用など新たな収入源を開拓するとともに、将来の設備修繕等に対応するため、計画的な資金確保対策として特定費用準備資金制度の活用を推進する。

イ 業務効率化等対策

事務の電子化及びDX導入等により、事務の効率化、簡素化の推進を図り、経費節減に繋げるとともに、毎月の子実管理の実施により、効率的な予算管理を行い収支目標の達成を図る。

ウ 労務管理等の向上

年次有給休暇の適正な取得や時間外勤務の縮減等について、毎月開催する委員会で対策立案や検証を行いながら、より正しい労務管理を目指す。

なお、ハラスメント防止について、アンケートや研修を実施しながら、風通しの良い労働環境の整備を推進する。

エ 人材育成

財団オンライン研修カリキュラムの階層別研修を中心に実施するほか、お客様へのサービス向上を図る接客研修や業務に必要な知識習得、職場環境の向上を図る実務研修などを館独自で実施し、職員のキャリアアップを目指す。

オ 施設設備の計画修繕対応

県有財産である水族館を管理するにあたり、長寿命化を見据えながらも、腐食や老朽化による施設設備の修繕に対応し、安全安心かつ清潔さを保つ施設管理を行う。

項目	金額 (千円)
外壁塗装改修工事	30,572
ペンギン水槽飼育舎他改修工事	33,781
屋外アザラシ水槽擬岩他改修工事	13,200
カワウソふれあいエリア改修工事	25,542
エトピリカ水槽改修工事	20,350
オットセイ水槽陸上部塗装工事	990
UPS蓄電池更新	2,922
受変電設備更新(VCB)	50,160
コンデンサ・リアクトル更新	9,856
観覧室系統排煙機(FSM-1)更新工事	4,898
非常放送設備更新工事	7,486
計 11 件	199,757

4 収益事業2（水族館売店事業）

地域に貢献する観光拠点施設としての役割を踏まえ、マーケットプレイスの物販部門「スーベニアショップ モラモラ」、シャークダイズルーム内の「コレクターズショップ ガレオス」、「リラックスカフェ マーメイド」の運営を行う。

また、有料化した環境に配慮したレジ袋の導入により、海洋環境への取り組みを推進し、SDGs で掲げられている海の豊かさを守る活動の一環として、プラスチック類の削減等社会的役割を果たす。

(1) 「スーベニアショップ モラモラ」の運営

館内イベントに関連したオリジナル商品の展開を推し進め、新商品の開発・販売促進に努めるとともに、話題性のあるキャラクターとのコラボ商品などの展開で、集客に結び付く店舗運営を目指す。また、導入に際しては、店舗内什器棚の商品の配置を考慮し、リピーター層にも満足してもらえる店舗作りに努め、収入増を図る。

(2) 「コレクターズショップ ガレオス」の運営

館内店舗ならではの専門性のある商品構成や、高クオリティ化の推進を図りながら店舗名である「サメ」やリニューアル後の「クラゲ」に特化した商品のアイテム数を増やしていく。また、店舗の雰囲気に合わせて大人向けの高品質商品を揃えることで単価アップも図りながら店舗展開を進める。

(3) 「リラックスカフェ マーメイド」の運営

リニューアル後のメニュー構成を基本に、イベントや季節に合わせた新メニューを提供し、常に新たな取り組みで利用促進を図るほか、ナイト営業時での限定メニューでは、夜の雰囲気に合わせてメニュー展開を図り、利用客増を図りながら売り上げを確保する。

その他、店舗イメージに則し、出来得る限り SDGs を考慮したプラスチック製食器やカップの見直しを図り、環境問題への取り組みもアピールする。

5 法人運営

新型コロナウイルス感染症により、県民文化センター及び大洗水族館の両集客施設の厳しい状況の中で、業績評価指標による振り返りと打ち返しの徹底に努めた目標値の確実な達成、書類の電子化及びネットワーク構築の整備による、業務の効率化と生産性向上の推進等で公益目的事業の充実に向けた財産基盤及び経営基盤の強化を図る。

なお、職員については、様々な変化にも柔軟に対応しながら業務を推進し、財団の役割や使命を十分に果たすことができる人材の確保から育成までの仕組みを整えていく。

また、管理職員をはじめ職員個々の成果や実績を PDCA マネジメントサイクルにより適正に評価し、給与等に反映させる能力・業績評価制度を継続実施するとともに、表彰制度の活用を推進し組織の活性化をはじめ職員の士気高揚と生産性の向上を図る。

II 収 支 予 算

- 正味財産増減予算書（損益ベース）…………… 17 ～ 18
- 正味財産増減予算書（損益ベース）内訳書 …… 19 ～ 20
- 資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書 …… 21

令和4年度 公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書(損益ベース)

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産等運用益	312	312	0
② 特定資産運用益	1,976	2,034	△ 58
③ 事業収益	2,672,498	2,326,113	346,385
自主公演入場料収益	36,925	5,661	31,264
受託公演入場料収益	0	150	△ 150
手数料収益	6,975	9,392	△ 2,417
負担金収益	2,200	2,200	0
受託公演委託金収益	26,091	26,091	0
県民文化センター指定管理収益	193,426	193,426	0
県民文化センター利用料収益	102,535	86,930	15,605
自然博物館水系展示水槽 管理委託金収益	16,536	16,596	△ 60
水族館入場料収益	1,513,263	1,311,704	201,559
売店収益	754,235	652,527	101,708
駐車場利用料収益	20,312	21,436	△ 1,124
④ 受取補助金等	65,078	130,748	△ 65,670
受取財団運営費補助金	51,878	52,691	△ 813
受取助成金	13,200	3,057	10,143
受取水族館20周年事業補助金収益	0	75,000	△ 75,000
⑤ 雑収益	33,732	21,538	12,194
⑥ 指定正味財産からの振替額	0	0	0
経常収益計(A)	2,773,596	2,480,745	292,851
(2) 経常費用			
① 事 業 費	2,603,331	2,287,303	316,028
文化活動団体等助成金	15,421	20,000	△ 4,579
役員報酬	11,951	12,181	△ 230
給料手当	561,434	544,592	16,842
臨時雇賃金	4,894	4,867	27
福利厚生費	7,113	6,787	326
法定福利費	87,873	90,760	△ 2,887
報償費	7,701	9,906	△ 2,205
旅費交通費	4,271	6,031	△ 1,760
接待交際費	40	40	0
消耗品費	52,950	46,266	6,684
燃料費	57,097	46,553	10,544
会議費	529	693	△ 164
印刷製本費	13,088	15,248	△ 2,160
光熱水料費	202,783	188,499	14,284
修繕費	31,342	30,986	356
飼料費	31,944	28,556	3,388
医薬材料費	1,554	1,459	95
賄材料費	40,599	34,571	6,028
通信運搬費	5,575	5,490	85
広告宣伝費	8,769	4,302	4,467
支払手数料	64,654	56,300	8,354
保険料	2,032	1,917	115
委託費	616,665	626,929	△ 10,264
賃借料	40,483	28,205	12,278

(単位:千円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
工事請負費	119,592	42,377	77,215
原材料費	357,847	305,997	51,850
生物購入費	9,421	14,063	△ 4,642
支払負担金	4,271	4,225	46
租税公課	88,237	77,812	10,425
退職給付費用	45,299	21,432	23,867
雑 費	20	20	0
修繕工事負担金	92,810	0	92,810
県納付金	0	150	△ 150
減価償却費	15,072	10,089	4,983
② 管理費	16,992	15,542	1,450
役員報酬	1,514	1,682	△ 168
給料手当	4,248	4,272	△ 24
臨時雇賃金	0	0	0
福利厚生費	195	38	157
法定福利費	780	842	△ 62
報償費	0	0	0
旅費交通費	1,141	2	1,139
接待交際費	20	40	△ 20
消耗品費	508	901	△ 393
燃料費	30	30	0
会議費	18	39	△ 21
印刷製本費	593	664	△ 71
光熱水料費	160	160	0
修繕費	100	100	0
医薬材料費	0	0	0
通信運搬費	422	495	△ 73
広告宣伝費	150	151	△ 1
支払手数料	158	699	△ 541
保険料	365	368	△ 3
委託費	630	785	△ 155
賃借料	1,056	1,051	5
支払負担金	1,227	1,423	△ 196
租税公課	73	65	8
退職給付費用	3,567	1,688	1,879
雑費	0	0	0
減価償却費	37	47	△ 10
経常費用計(B)	2,620,323	2,302,845	317,478
当期経常増減額(A)-(B)	153,273	177,900	△ 24,627
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計(C)	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 固定資産除去損			
固定資産売却・除却損	0	0	0
経常外費用計(D)	0	0	0
当期経常外増減額(C)-(D)	0	0	0
当期一般正味財産増減額	153,273	177,900	△ 24,627
一般正味財産期首残高	1,242,763	1,064,863	177,900
一般正味財産期末残高	1,396,036	1,242,763	153,273
II 指定正味財産増減の部			
① 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	565,000	565,000	0
指定正味財産期末残高	565,000	565,000	0
III 正味財産期末残高	1,961,036	1,807,763	153,273

令和4年度 公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書内訳表
(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位:千円)

科目 \ 区分	公益目的事業会計			収益事業会計			法人会計	合計
	公1 文化 振興 事業	公2 水族 館事 業	小計	収1 文自 主セ ンタ ー	収2 売水 店族 事館 業	小計		
I 一般正味財産増減の部								
1 経常増減の部								
(1) 経常収益								
① 基本財産等運用益	312	0	312	0	0	0	0	312
② 特定資産運用益	1,925	38	1,963	2	7	9	4	1,976
③ 事業収益	356,444	1,529,799	1,886,243	35,891	750,364	786,255	0	2,672,498
自主公演入場料収益	36,925	0	36,925	0	0	0	0	36,925
受託公演入場料収益	0	0	0	0	0	0	0	0
手数料収益	5,828	0	5,828	1,147	0	1,147	0	6,975
負担金収益	2,200	0	2,200	0	0	0	0	2,200
受託公演委託金収益	26,091	0	26,091	0	0	0	0	26,091
県民文化センター指定管理収益	193,426	0	193,426	0	0	0	0	193,426
県民文化センター利用料収益	91,974	0	91,974	10,561	0	10,561	0	102,535
自然博物館水系展示水槽管理委託金収益	0	16,536	16,536	0	0	0	0	16,536
水族館入場料収益	0	1,513,263	1,513,263	0	0	0	0	1,513,263
売店収益	0	0	0	3,871	750,364	754,235	0	754,235
駐車場利用料収益	0	0	0	20,312	0	20,312	0	20,312
④ 受取補助金等	48,090	0	48,090	0	0	0	16,988	65,078
受取財団運営費補助金	34,890	0	34,890	0	0	0	16,988	51,878
受取助成金	13,200	0	13,200	0	0	0	0	13,200
受取水族館20周年事業補助金収益	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ 雑収益	1,297	24,865	26,162	0	7,570	7,570	0	33,732
雑収益	1,297	24,865	26,162	0	7,570	7,570	0	33,732
⑥ 指定正味財産からの振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計(A)	408,068	1,554,702	1,962,770	35,893	757,941	793,834	16,992	2,773,596
(2) 経常費用								
① 事業費	407,508	1,490,489	1,897,997	31,593	673,741	705,334		2,603,331
文化活動団体等助成金	15,421	0	15,421	0	0	0		15,421
役員報酬	3,005	7,780	10,785	0	1,166	1,166		11,951
給与手当	121,394	347,023	468,417	7,023	85,994	93,017		561,434
臨時雇賃金	65	1,453	1,518	0	3,376	3,376		4,894
福利厚生費	1,667	4,646	6,313	88	712	800		7,113
法定福利費	20,375	54,427	74,802	1,194	11,877	13,071		87,873
報償費	7,561	140	7,701	0	0	0		7,701
旅費交通費	2,352	1,701	4,053	0	218	218		4,271
接待交際費	0	40	40	0	0	0		40
消耗品費	6,000	28,540	34,540	105	18,305	18,410		52,950
燃料費	4,277	45,829	50,106	0	6,991	6,991		57,097
会議費	274	208	482	0	47	47		529
印刷製本費	5,722	5,979	11,701	30	1,357	1,387		13,088
光熱水料費	25,020	150,962	175,982	3,763	23,038	26,801		202,783
修繕費	13,787	13,605	27,392	2,518	1,432	3,950		31,342
飼料費	0	31,944	31,944	0	0	0		31,944
医薬材料費	30	1,524	1,554	0	0	0		1,554
賄材料費	0	0	0	0	40,599	40,599		40,599
通信運搬費	2,559	2,352	4,911	5	659	664		5,575
広告宣伝費	4,733	3,289	8,022	0	747	747		8,769
支払手数料	5,375	42,458	47,833	373	16,448	16,821		64,654
保険料	470	854	1,324	318	390	708		2,032
委託費	127,582	416,179	543,761	10,531	62,373	72,904		616,665
賃借料	13,140	21,797	34,937	492	5,054	5,546		40,483
工事請負費	0	119,592	119,592	0	0	0		119,592
原材料費	0	0	0	2,633	355,214	357,847		357,847
生物購入費	0	9,421	9,421	0	0	0		9,421
支払負担金	235	2,718	2,953	9	1,309	1,318		4,271
租税公課	13,284	60,286	73,570	983	13,684	14,667		88,237
退職給付費用	11,337	26,534	37,871	1,417	6,011	7,428		45,299
雑費	0	20	20	0	0	0		20
修繕工事負担金	0	80,522	80,522	0	12,288	12,288		92,810
県納付金	0	0	0	0	0	0		0
減価償却費	1,843	8,666	10,509	111	4,452	4,563		15,072

(単位:千円)

科目 \ 区分	公益目的事業会計			収益事業会計			法人会計	合計
	公1 文化 振興事業	公2 水族館事業	小計	収1 自主 センター	収2 売店 水族館 事業	小計		
② 管理費							16,992	16,992
役員報酬							1,514	1,514
給料手当							4,248	4,248
臨時雇賃金							0	0
福利厚生費							195	195
法定福利費							780	780
報償費							0	0
旅費交通費							1,141	1,141
接待交際費							20	20
消耗品費							508	508
燃料費							30	30
会議費							18	18
印刷製本費							593	593
光熱水料費							160	160
修繕費							100	100
医薬材料費							0	0
通信運搬費							422	422
広告宣伝費							150	150
支払手数料							158	158
保険料							365	365
委託費							630	630
賃借料							1,056	1,056
支払負担金							1,227	1,227
租税公課							73	73
退職給付費用							3,567	3,567
雑費							0	0
減価償却費							37	37
経常費用計(B)	407,508	1,490,489	1,897,997	31,593	673,741	705,334	16,992	2,620,323
当期経常増減額(A)-(B)	560	64,213	64,773	4,300	84,200	88,500	0	153,273
2 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計(C)	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
① 固定資産除去損	0	0	0	0	0	0	0	0
固定資産除却損	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計(D)	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額(C)-(D)	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額(E)	0	41,948	41,948	0	△ 41,948	△ 41,948	0	0
当期一般正味財産増減額	560	106,161	106,721	4,300	42,252	46,552	0	153,273
一般正味財産期首残高	107,742	712,276	820,018	42,037	380,332	422,369	376	1,242,763
一般正味財産期末残高	108,302	818,437	926,739	46,337	422,584	468,921	376	1,396,036
II 指定正味財産増減の部								
① 一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	565,000	0	565,000	0	0	0	0	565,000
指定正味財産期末残高	565,000	0	565,000	0	0	0	0	565,000
III 正味財産期末残高	673,302	818,437	1,491,739	46,337	422,584	468,921	376	1,961,036

令和4年度資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書

(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

1. 資金調達の見込み

借入予定の有無 なし

2. 設備投資の見込み

(単位:千円)

取得	事業番号	設備投資の内容	支出予定額	資金調達方法
	公2	フンボルトペンギン剥製・骨格標本製作(幼鳥)	330	自己資金
公2	年間パスポート発行機一式	1,400	自己資金	
公2	高額紙幣両替機	605	自己資金	
		計	2,335	

3. 特定資産残高の見込み

(単位:千円)

特定資産の区分	積立金の残高及び増減の見込み額			
	前期末残高 (A)	当期増加額 (B)	当期減少額 (C)	当期末残高 (A)+(B)-(C)
(1) 退職給付引当資産	519,514	48,866	0	568,380
(2) 助成事業積立資産	535,000	0	0	535,000
(3) 文化振興事業積立資産	58,340	2	0	58,342
(4) 施設設備修繕等積立資産	216,296	5	0	216,301
(5) 事業資金積立資産	213,420	4	0	213,424
(6) 緊急時対応積立資産	121,424	165,778	0	287,202
(7) 特定費用準備資金	41,667	4	15,421	26,250
文化活動助成事業資金	(41,667)	(4)	(15,421)	(26,250)
(8) 資産取得資金	128,771	5	128,776	0
減価償却資産取得資金	(128,771)	(5)	(128,776)	(0)
合計	1,834,432	214,664	144,197	1,904,899